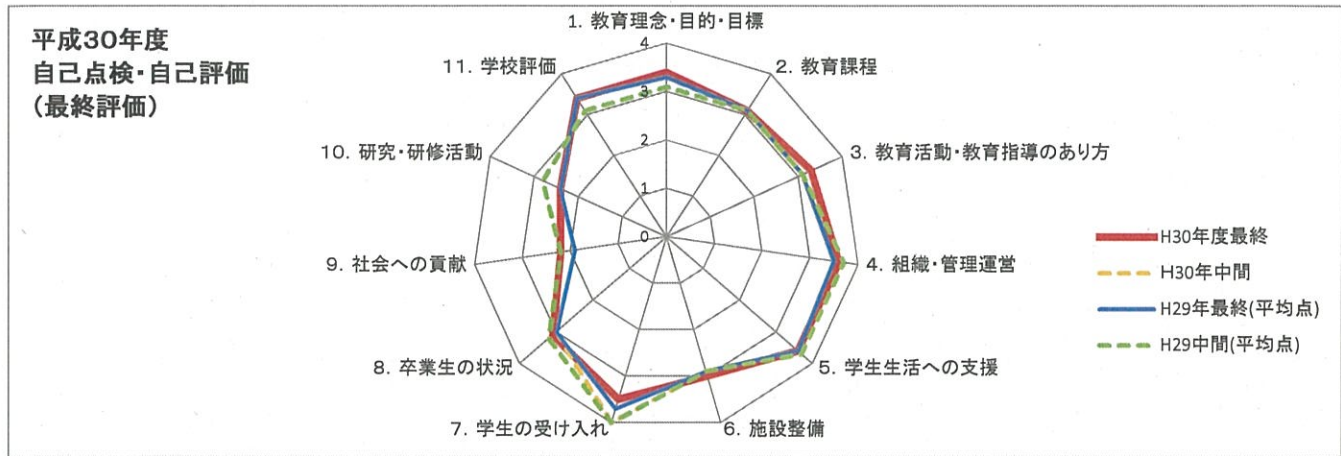


○ 大項目 評価点平均

評価基準: 4点;適切、3点;ほぼ適切、2点;やや適切、1点;不適切



○ 大項目における平成30年の概要と課題

1. 教育理念・目的・目標

教育理念・目的・目標について共通理解を行った。次年度の授業概要に反映させ、学習指針としていく。

2. 教育課程

シラバスの見直しを、専門分野 I (基礎看護学) の科目の教育内容と科目の関連、技術演習項目の見直しなどを実施。また、看護過程の展開技術の学習を基礎から専門領域に発展させることを意図し、領域ごとにどのような事例を用いて学習するかの検討・共通理解を行った。他、科目間の関連から進度を見直し、学年内での履修時期を変更した。次年度実施にて評価していく。

3. 教育活動・教育指導のあり方

実習指導評価の継続・教材の購入等は学生の学習環境を整え、一部改善されている。老朽化もあり整備は必要であるが予算の都合もあり実際まで至っていない。講義においては今年度、各学年にカリキュラム担当を置くことより、外部講師の日程調整や学生への時間割揭示、変更調整が迅速に行われている。

基礎看護学から領域別看護学に一貫性をもたせ、思考を整理しやすいようにその関連性や重複の有無、統一性といった視点で検討した。また、教員同士が他のどの科目でどのような事例検討を実施するのか、自己の担当科目の重要な点はどこかを明確にし、授業ができるように検討できた。次年度の実施を経て、評価していきたい。

再履修者・聴講希望学生における支援や学生便覧の活用など課題は多くある。今後も学生個々の学習状況に合わせて対応していけるように細部への改善が必要である。

4. 組織・管理運営

学校職員について、病院の併任以外は適正になっている。

今年度より職務分掌が明文化され各学年担当の業務範囲が明確になった。各人が課された業務をスムーズに行えよう連携・協力が必要であるといえる。

5. 学校生活への支援

カウンセリング室、自治会の活動のための部屋の確保などは毎年課題になっているが、整備できていない。課外活動に関しては、内容の特性上、学生の興味関心のある内容の特定の参加者になっているため、今後、自治会活動として企画運営するなどできれば、課外活動参加者が増えるのではないかと。カウンセリングについては専用の部屋がなく、プライバシーが保護されているとはいえない。

卒業生からの意見にあったが、教員の学生に対する対応について、学生を尊重し、意見を聞き、対話ができる関係を心掛ける必要性を再認識した。学生だけでなく、教員としての倫理についても職員間で振り返る機会を作っていくことが課題である。

6. 施設整備

使用目的にあった施設利用はできていない。学生や職員が時間調整など協力体制を継続していく。施設管理上学生が効率的な学習ができるように安全安楽で学生の自主性を重んじ、管理できるようにルールの徹底、見直しを行っていく。

教材担当の教員が教材教具の点検を継続していく。しかし、劣化 破損状況を教材担当教員に伝えるが、予算の都合もあり購入まで至っていない現状もある。今後も教材教具の丁寧で適切な使用を学生に指導するとともに、教員自身が故障や破損が生じた場合の報告を継続して実施するようにしていく必要がある。優先順位を決め整備計画を作成していく必要がある

7. 学生の受け入れ

受験者が増加し、質の高い学生が入学すること、昨年度と同様に一般試験(第1回)の受験者の辞退者を減らせるように、当校についての広報活動や母体病院との連携を務める。今年度は、高岡駅の電光掲示板を活用し、オープンキャンパスの開催をアピールしたり、オープンキャンパスを平日2回開催として学生確保に力を注いだ。しかし、応募者数の増加はなく、特に推薦・社会人入試の応募者数が減少したことがダメージとして大きかった。高校教諭とのつながりの強化を図ることが課題。また、学校の今後の方針を踏まえて、質の確保は強化していきたい。

8. 卒業生の状況

就業継続に向けて、在学中から本人の適正に合った職場選択や職場適応力を向上させるための教育を実施している。

国家試験合格率を維持するため、学力の底上げが必要であり、3年次からではなく、1年次から段階を追った国試対策が必要と考える。日頃からの学力低迷者に対する支援が必要である。3年次では学力低迷者に長期休業中の登校学習を斡旋し学習指導をするなど対策を講じている。しかし、新卒者の合格率94%と全国平均とはいえ、全員合格に至らず。

在学期間を通じて、学習支援をしているが、内的動機付けにはなかなか至らないため、自己の学習方法の工夫にまで発展できる学生は少なく支援の方法に課題を感じている。個々の得点状況を分析していく。

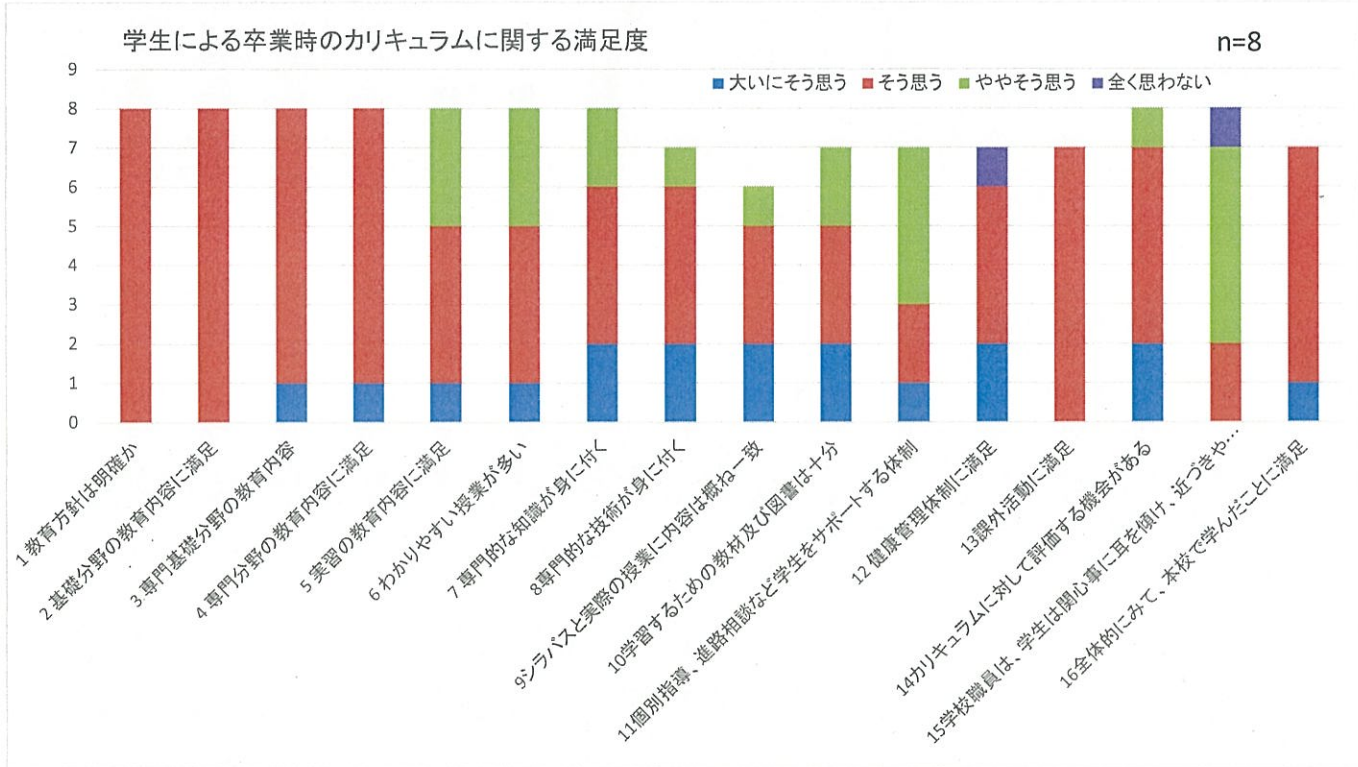
## 9. 社会への貢献

地域のニーズを把握する機会を得るさらなる努力が必要である。母体病院との連携はとれているが、母体病院以外の連携は乏しい状況にある。臨地実習施設の縮小の現状もあるため、課題としての意義は大きい。ボランティアの参加については、学生の主体的なボランティア活動の参加につながっていくことを期待したい。

## 10. 研究・研修活動

研修や費用の保障はあるが十分な研究活動、発表ができていない。研究をする風土を醸成していく必要がある。また対外的な講師の役割を果たせていないため活動の可能性を探る必要もある。

### ○学生によるカリキュラムに関する満足度(卒業生)



### ○学生の意見、評価理由

#### 5 実習の教育内容に満足している

- ・ 要項に書いてないことを口頭で言うのはやめてほしいです。
- ・ 教員同士での生徒への説明する内容が違うときがあり、混乱したことがあった。

#### 7 専門的な知識が身に付く

- ・ 母性の授業がわかりやすかった

#### 10 学習するための教材及び図書は十分である

- ・ 授業や課題で使用する図書などはもう少し数がそろっていると助かります。
- ・ 富大図書館まで借りに行かなくてはならず、多少苦勞しました。
- ・ 使用しない教材があったため

#### 12 健康管理体制に満足している

- ・ 体調不良で実習の点数がひかれることで無理して出席せざるを得ない。

#### 13 課外活動に満足している

- ・ めくもり体験はよかった

#### 14 カリキュラムに対して評価する機会が与えられている

#### 15 学校職員は、学生は関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である

- ・ 挨拶しても返してくれ来、近寄りたいたい教員がいる。
- ・ 近づきやすい教員と近づきにくい教員がいた。
- ・ 先生の顔色を見なければならない。

#### ※ 学校への要望について自由に意見を書いて下さい。

- ・ 実習終了が遅くなりすぎると、国試まで2か月ほどしかない
- ・ 生徒と先生として向き合ってほしい
- ・ 学生のために思い指導して下さりありがとうございました。